

サウンドテックで現代音楽レクチャー

ケージの後に誰が来るか

河合孝治さんがサウンドアート解説

「一乗音楽図」の楽譜を示す河合さん



高級オーディオで再生されるサウンドアートを聞く参加者



現代音楽の創作を続け
ている河合孝治さんが
現代音楽の歴史を概観し
ながら自作を披露するレ
クチャー「ジョンケージ
の後に誰が来るのか」が
3日、桑山2丁目のオー
ディオ店「サウンドテック」
で開催された。今ま
での音楽について「意識、
理性、分別」の音楽と規
定され、楽譜という自分
の外部に記述・固定され
た音を絶対化する傾向が
あるとした上で、河合さ
んの目指す「無意識 無
分別」のサウンドアート
が示された。

末富健夫さんと河合さ
んが同級生だったことか
ら実現したもの。
河合さんはニーチェ以
降の現代思想の特徴とし
て「生成変化」「固定し
た存在より関係性へ」「表
層の意識より深層の無意
識」という3項目を挙げ
つつ、仏教においては現
代の到来をまつまでもな
く極めて早い段階からそ
れぞれ「無常」「縁起」「唯
識」としてそれらの考え
方が現われていたと説
明。これらの特徴は現代
社会や現代音楽の特徴で
もあると述べた。

まず、現代音楽家、ジョ
ン・ケージの著名な作品
「4分33秒」のオーケス
トラ・バージョンの映像
を上映。同作は演奏者が
4分33秒間何もしないと
いう曲で、河合さんはこ
の曲を「主体的に一首も
出していない」と説明し、
ケージが禅の大家、鈴木
大拙の影響を受けたこと
による、瞑想のように音
に集中させる作品だとし
た。

続いて大阪万博のあつ
た1969年に現代音楽
家、湯浅譲二が作曲し
た「ヴォイセス・カミン
グ」や河合さんの自作で
ホワイトノイズや水の流
れる音の音響やししおど
しの断続的な打撃音の文
節を取り入れた「ディ
メンジョン オブ カオスモ
ス」なども披露された。
河合さんの曲に映像がつ
けられた作品には道元の
言葉の英訳の朗読と文章

の表示もあった。
最後に、梵鐘、汽笛、
蒸気機関、雷のいずれか
の音を選んでその音の
みを上座部仏教の瞑想
法「ヴィパッサナー」の
ように注意して聞いてい
く、河合さんの聴衆参加
型の作品「一乗音楽図」
についても説明され、「こ
れらの音楽はジョン・
ケージがなければ出て
こなかった」と河合さん
はレクチャーを結んでい
た。

(縄田陽介)